

## ■ 本書について

### 英語力アップは、AI とともに—— ChatGPT を活用するこれからの学習法

Open AI 社が開発した ChatGPT が話題です。人間の脳ではとていストックできない規模の「大規模言語モデル (LLM, large language model)」を活かして、ユーザーが期待する「役」を演じながら chat してくれます。俳優が「役作り」をして、さまざまな人物を演じるように、ChatGPT もユーザーが与えるプロンプト (作動指示) にそって、さまざまな役を演じるべく膨大なセリフをはきだします。

その役回りが「プロジェクトの企画者」であれば、「プロジェクトの企画者のセリフ」=「**企画書の案そのもの**」を編み出してくれる。

その役回りが「顧客対応の営業担当者」であれば、「顧客対応の営業担当者のセリフ」=「顧客のメールに対する**回答メール案**」を作成してくれる。もちろん**文章の翻訳や添削・ブラッシュアップ**もお手のものです。

……というわけで、ChatGPT のそういう使い方については、雑誌の特集記事やブログ、さまざまな本が出ています。しかし読

んでみると、せっかくの ChatGPT が単に「その場のやっつけ仕事や事務的なルーティンワークをクリアするためのツール」として扱われていることが多い。あまりにもったいない話です。

ChatGPT は大規模言語モデルにもとづく「**ことばの達人**」なわけですから、史上最高の語学講師でもある。語学講師の役を演じて**もらおうプロンプト**を適切にインプットすれば、理想の語学レッスンをしてくれます。

とはいえ、英語学習のために試しに ChatGPT を使ってみたがたの多くが、以下のような感想をいただいているのではないだろうか。

「お題を出してやると、瞬時にすごい英文を書いてくれるよね。でも毎回やたらと長文だし、難しい単語もあれこれ出てきて、お手上げ感を感じる。なんかこう、有能すぎるってのかな……」

**中級・上級の学習者が英語の実力を飛躍的に高めるために ChatGPT をどう使えばよいか** —— ここにフォーカスしながら、**使い方の実際例**を豊富に示したのが、この本です。

個々の学習者が

- ① 個人個人のニーズや関心に合った内容で
- ② 個人個人の實力に見合った難易度の
- ③ 個人個人のニーズに合った長さの

**英文読み物や会話教材を自ら「オーダーメイド」で作成して活用**

する——そういうことができる時代になったのです。英語学習革命が静かに、確実に、起きているのです。

本書では、ChatGPT の実力を存分に活かす方法、つまりプロンプト (ChatGPT への作動指示) の上手な書き方を具体的に示しました。

## 十年一日の英語教師よ、さようなら！

実は高校・大学の英語の先生の多くが、ChatGPT の存在を前に危機感をいだいているのではないのでしょうか。……少なくとも、危機感をいだくべきなのです。十年一日の英文訳読と、平板なカタカナ英語によるコーラスリーディング (一斉音読) でお茶を濁しているような先生は、いまや即刻解雇ものでしょう。

ChatGPT に「以下の英文を和訳してください」とプロンプトを示し、その下に英文を貼りつければ、和訳文が立ちどころにあらわれます。昔ながらの英文訳読の予習など、ChatGPT を使えば形式的にはわずか1分で済んでしまう。

和文英訳の英作文問題も、「以下の和文を英訳してください」でイチコロ。しかも ChatGPT なら再トライを指示すれば別の訳文案も示してくれます。

「以下の英文を音読してください」とプロンプトを示し、その下に英文を貼りつければ、ChatGPT の回答欄に

**Sure, I'll read it out for you:**

“ [ユーザーが示した英文] ”

**(You can use the loudspeaker icon to listen to the audio.)**

このような表示があらわれます。日本語に訳せば

「もちろんです。音読してさしあげます：

“ [ユーザーが示した英文] ”

(スピーカー型のアイコンを使って、音声で聴けます) 」

そう言っているわけですね。実際、ChatGPT の回答の末尾左下、スピーカーの形をしたアイコンをクリックすれば、**やや早口ながら聞き取りやすい声で音読**をしてくれます。

翻訳機能も音読機能も、**多言語対応**です。英語や中国語はもとより、わたしが長年習ってきたタイ語やポーランド語だって、正確な訳文と聞き取りやすい音読で返してくれるのです。(残念ながら現在の ChatGPT には音読速度を調整する機能はついていません)

AI がここまでやれると、「英語の勉強に ChatGPT を使ってはダメ。教科書と参考書と辞書を、なめるように読んでいけばいいのだ」などのたまう前時代の教師にはご退場ねがうしかありません。

単なる「訳文づくり」にとどまらない ChatGPT の多様な機能を生徒たちが使いこなして、**英語学習を個人個人のやりかたで楽しめるよう**にもっていく。そのために個別指導することこそ、これからの英語教師の役目です。ChatGPT の**効果的な利用法のヒントを豊富な実例で示した**のがこの本です。その意味でこの本は、学習者のみならず英語を教える側のひとにも、ぜひ手にとっていただきたい。

### ユニークな英語音読教材としても使えます

ChatGPT が、定型文作成や文章要約のようなルーティンワークにとどまらず、**ユーモアとウィットにあふれるクリエイティブな仕事**をどこまでやれるか——それを知れば、「だったら ChatGPT にこんなこともやらせてもらおう!」と、さらに**アイデアがふくらむ**のではないのでしょうか。

本書の後半では、**プロの劇作家もはだして逃げる** ChatGPT のクリエイティブ機能を、これまた豊富な実例で示しました。英文を読んで楽しいのはもちろんですが、和訳文だけ読んでいただき、ChatGPT がもつ創造力をしみじみ実感いただくのも「あり」だと思います。ChatGPT が「ここまでできる」ことを知らないひとが多すぎます!

いっぽう、本書を**純粋に英語音読教材として**お使いいただくこともできます。前著『英英辞典の底力』にひきつづき、本文のダイアログ部分と英英辞典の例文は、**第1アクセント符号** (á é í ó

ú) と**第2アクセント符号** (à è ì ò ù) を使って**文強勢**が示してあります。

英語は「強く読むべき」音節と「弱く読むべき」音節のメリハリがとりわけハッキリした言語。音読と発話において正しい英語をアウトプットできるよう、学習者がつねに**文強勢**を意識することになることを意図したものです。**文強勢の規則**について詳しくは pp.020-028 をご覧ください。

ChatGPT が作成した多数の英文にアクセント符号がふられています。この符号はすべて著者の泉が加筆した部分です。ChatGPT がふったアクセント符号ではありません。くれぐれも誤解なきよう、申し添えます。

### ChatGPT の“ひとがら”に触れる

正直に告白します。本書を制作しながら ChatGPT とおつきあいしていて、いつしかわたしは、ChatGPT の高い倫理性と健全なユーモアに感銘を受け始めている自分に気づきました。

プロンプトを書くときも、本来は、**Summarize the following article in 100 words.** のように無機質な命令文を与えるのがふうなのですが、わたしなどは **Would you summarize . . . ?** と、人間を相手にしているかのように、つつい丁寧文で書いてしまうことも。プロンプトの丁寧度合いを変えたら ChatGPT のお返事が変わる……ことはたぶんないと思いますが。

ChatGPT が繰り出すさまざまな文章には、当然ながら一定の価値観が編み込まれています。すべての文章の流れの後ろには無数の「判断」が隠れていますね。そして、およそすべての「判断」は、なにかの価値観があってはじめて成立するものなのです。

そういうことは、ChatGPT をただ単に事務作業ツールとして使い、文章要約や文法チェックをさせているだけでは気づきづらいものです。流れ作業の手作業や伝票処理作業を人間の従業員にやらせても、その従業員の価値観に思い至ることはない。しかしその同じ従業員も、就業時間外にほろ酔いトークをしてみれば、ひとりひとりの個性や価値観があぶり出されてくるものです。

本書は ChatGPT が備えもつ個性と価値観をあぶり出す場でもあります。ChatGPT の“ひとがら”に触れていただくというのが本書の隠された趣旨です。その高い倫理性と健全なユーモアは、当然ながら ChatGPT を企画した制作会社が膨大な人力によってアルゴリズムをファインチューニングして編み込んでいったものなのです。(逆にいえば、編み込まれる倫理性や判断基準しだいでは、悪魔のようにダークなアウトプットが生まれうることも、文字通り肌感覚で感じざるをえません。統制国家で使われる AI の倫理性や判断基準が ChatGPT と異なるものであろうことは、容易に想像がつきますし、幼少のころからそういう AI に浸らされる国民がつくづくかわいそうです)

ChatGPT とは、AI とは、いったいどういうものなのか——そういう原初的な疑問に何らかのお答えのヒントが提供できていればと願っています。

## 無料版の ChatGPT 3.5 か、有料版の ChatGPT 4o か

ChatGPT には、いくらでも無料で使える ChatGPT 3.5 と、一定の利用回数上限がある高性能の ChatGPT 4o (無制限に使おうとすると月に 20 米ドルの支払いが必要) があります。英語学習をアシストしてもらおう場合、有料版の ChatGPT 4o を使うべきなのでしょうか。(4o はヨンジュウではなくフォー・オーです)

結論として言えば、一般的な英語学習ニーズを満たす分には、無料版の ChatGPT 3.5 で十分です。十分に正確かつクリエイティブな英文作成をやっつけてくれます。本書の第 1～3 章、第 6～7 章の英文は ChatGPT 3.5 が作成したものです。論より証拠、みごとな仕事なのです。

いっぽう、ChatGPT 4o を使った章は 第 4 章 (英文添削)、第 5 章 (ことわざ)、第 8 章 (ネットいじめ撃退トーク)、終章 (ミニ版ディベート) の 4 つの章です。

ChatGPT 4o のすごさを感じたのは、第 4 章執筆時。無料版の ChatGPT 3.5 に英文添削をさせると、修正英文のアウトプットはほぼ問題なし。しかし「各修正箇所ごとに、なぜ修正が必要なのか説明してください」と日本語での説明を求めると、ChatGPT 3.5 の仕事はあちこちに突っ込みどころがある仕上がりでした。「誤った英語原文」と「自ら修正した正しい英文」を行き来しながら、語法解説を日本語で仕上げるといのは、難易度が高いものだったのでしょう。ところが同じ仕事を ChatGPT 4o にさせると、解説文までスジの通った形に仕上げられてきて、脱帽するしかあ

りませんでした。

さらに補足的に解説しておく、時々刻々のファクトを盛り込むことが要求される仕事では断然 ChatGPT 4o が優れています。プロンプトの要求に応じて、いま現在のネット上の関連サイトを縦横にサーチして必要情報を集めて要約する機能がついているのが ChatGPT 4o です。回答のなかに、情報ソースへのリンクも示してくれるので、もとネタが掲載されているサイトにアクセスして内容確認をすることも可能です。さまざまな企画作成に ChatGPT を使っておられる向きには、ChatGPT 4o の提供する利便性は月 20 米ドル払ってもおつりがくるでしょう。

### 英英辞典を使い倒し、英英辞典を特注制作する

本書は、前著『英英辞典の底力』（プレイス社、2023 年刊）の続編であり姉妹篇でもあります。

#### 「英英辞典」こそが英語学習の最善のツール！

これはわたしが、うまずたゆまず発信しつづけたメッセージですので、本書で単語ないし語群の意味を解説するときには、おりおり英英辞典の語釈（語義説明）・用例を引用しています。

前著『英英辞典の底力』は英英辞典への入門篇でしたので、同書においては引用例もできるだけ「非ネイティブ初級学習者向けの英英辞典」からひきました。

いっぽう本書は、ChatGPT が繰り出す文章の数々がやや手ごわいこともあり、引用元の辞書は「非ネイティブ上級学習者向けの英英辞典」をおもに使っています。具体的には以下の 3 つの辞書：

- ・ *Merriam-Webster's Advanced Learner's English Dictionary*  
(新訂版、2017 年刊)
- ・ *Longman Dictionary of Contemporary English*  
(第 6 版、2014 年刊)
- ・ *Oxford Advanced Learner's Dictionary*  
(第 10 版、2020 年刊)

本書のなかで英英辞典から語釈を引用する際は、引用元となる辞書名を示しています。上記の 3 つの英英辞典からの引用は、それぞれ

(*Merriam-Webster*) (*Longman*) (*Oxford*)

と注記します。

そして、ここがまた驚きのポイントかもしれませんが、ChatGPT の言語能力を駆使して、英英辞典ふうの語釈・用例を、その場その場でパッと作らせてご覧にいきます。そういうアドホックな辞書制作能力を ChatGPT がもっていることを実例を通じてお示しするのも、本邦初、ひょっとしたら世界初の試みでしょう。

## いくつかのご注意

ChatGPT は世界じゅうの膨大な数の使用者とのやりとりを通じて、秒単位で進化しています。プロンプトを入力するたびに回答を生成しなおしてくれます。

本書に挙げた、さまざまの「ユーザーのプロンプト」と「ChatGPT の回答」は、あくまで本書執筆の瞬間のものであり、読者の皆さんが全く同じプロンプトを入力しても ChatGPT からの出力は本書掲載のものとは大なり小なり異なるものでしょう。

その意味で、ChatGPT は、ロボットというよりも、かぎりなく「生き物」です。

プログラミングの世界では、1文字のミスがあればそれがバグとなり動作に不具合を起こします。しかし ChatGPT に与えるプロンプトは、そういうガチガチのものではなく、ユーザー側に多少の言語的ミスがあっても ChatGPT がユーザーの意を察して回答を出してくれます。

ChatGPT の基本的な言語は英語です。こみ入った作業を英語でさせようとするとき、プロンプトは英語で与えたほうがよりの確な結果が得られるように思われます。(あくまで筆者の経験にもとづく主観であり、定量分析をしたわけではありません)

本書の前半でプロンプト文はおもに日本語で書いてありますが、本書の後半では英語を使っています(読者の便のため必ず和訳をつけてありますが)。著者として「プロンプトは英語で書いてくださ

い」と読者の皆さんに念押ししているわけではありません。日本語でプロンプトを書くときは「回答は英語でお願いします」とプロンプトの末尾に付記すればよいでしょう。

読者の皆さんにとって本書がうれしい驚きと学びの場となりますように！

